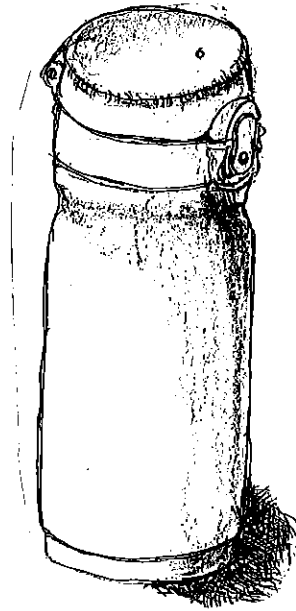


最後の大一番

3年生＝受験生。彼らにとって、高校受験は大きな関門でもあります。近年、受験制度も大きく変わり、私立・公立ともに早い時期に試験を行い、入学生の確保を行うようになってきました。本校においても半数の生徒が既に進路が決定しています。最終的には明日から2日間、公立の後期試験が実施され、ほぼ全ての生徒の進路が決定します。この最後の大一番に臨むのは17名。幸いにして、多くの高校が定員割れをしていますので、今まで蓄えてきた力を発揮すれば、まず大丈夫だろうと思っています。しかし、油断は禁物。家を出る時から終わって家に着くまでが試験だと肝に銘じ、気を抜くことなく緊張感をもって臨んでほしいと思います。その結果が出るのは卒業証書授与式の翌日15日です。全ての生徒に“15の春”が訪れることを心から願っています。



ホツト一息 // 気持ちはゆとりです!!!

桃の節句



3月3日は“雛祭り”。女の子がいるご家庭では、雛人形が飾られたかと思えます。この“雛祭り”は、女の子のすこやかな成長と健康を願う、“桃の節句”の行事です。先日、私も孫娘の“初節句”のお祝いをしました。が、「雛人形を飾ると、家が華やかになるなあ」と感じたところです。もちろん5月5日の“端午の節句”で兜飾りを飾ったり、鯉のぼりを泳がせたりするのも、晴れやかな気持ちになります。ともに子や孫の健全な成長と健康を願う、日本古来の伝統行事であり、私たちの生活に欠かせないものだと思っています。

ところで、先日、ニュースを見ていますと、「最近のファッションには“ユニセックス”が多く取り入れられている。」と報じられていました。そこでふと考えたのが・・・「確かに近年、ジェンダーフリーとかジェンダーレスという言葉が耳にするようになったけど、この“桃の節句”や“端午の節句”はどうなる???」ということ。ちなみに、ジェンダーフリーとは「性による社会的・文化的差別を受けることなく、自由に個々の能力を発揮すること」で、いっぽう、ジェンダーレスは「社会に存在する社会的・文化的な性差をなくしていこうという考えかたで、仕事や生活のなかにある男女の区別を

撤廃すること」ですので、ジェンダーレスの考え方や取組に関わりますが、「もしかして、近い将来、“桃の節句”と“端午の節句”が一つになるのでは・・・もしかして、4月4日が“子供の節句”になるのでは・・・」と思った次第です。余計な心配かもしれませんが、私はやっぱり“日本古来の伝統行事”を大切にしていきたいし、子や孫にも引き継いでもらいたいと思っています。